令和８年度　岸和田支援防災フェス（報告）

R8.9.26（土）13:15～15:15

大規模災害のみの想定ではなく、身近な災害にも対応できるよう準備（必要なもの・ことを把握）し、災害発生後、各家庭での初期対応を早め、さらには防災意識の向上及び関係機関との連携をはかることを目的とし、学校、地域（医療）、保護者間で必要とする対策及び情報の共有をめざすために、３回めの「岸和田支援防災フェス」を実施しました。



授業参観後に自衛隊による講演を行い、放課後に各ブースでのイベント開催という形で行い、今年度も放課後等デイサービス事業所や支援学校関係者、保健師、防災士など、外部機関関係者にも参加いただき、賑やかな雰囲気の中、学び多き充実した時間を過ごすことができました。

以下、各ブースの内容について、報告させていただきます。

１．自衛隊による講演

【担当】自衛隊　阪南地区隊　岸和田地域事務所

【内容】自衛隊による講演を行いました。災害派遣経験をもとに、地震や津波、水害などの災害から命を守るための備えと行動について学ぶ講演でした。熊本地震や能登半島地震などの教訓から、災害時には迅速な避難が重要であり、日頃から避難場所や連絡方法を家族で確認しておく必要があると教えていただきました。また、水・食料の備蓄や家具固定などの事前準備、自助・共助・公助の考え方を理解し、自らの命を守る行動を最優先にすることの大切さが強調されました。



２．避難所体験コーナー

【担当】岸和田市役所危機管理部危機管理課

【内容】避難所体験コーナーとして、岸和田市役所の皆様にトイレ問題をテーマにテント式トイレ、段ボール式トイレ、自動ラップ式トイレを設置していただき、来場された方が実物を見て知ることができました。避難所で過ごす際に役立つグッズや実際に災害現場で起こるトイレ問題の映像を学ぶことができ、各家庭で避難する際の準備について考える機会となりました。岸和田市で備蓄している白ご飯、白がゆの非常食配布もありました。





3．災害時のおむつ使用等についてのレクチャー、簡易トイレ展示、サンプル配布

【担当】川村義肢エイドセンター大阪、株式会社総合サービス

【内容】本校 PTA のサークル活動でも何度かお話を伺っている川村義肢エイドセンター大阪のおむつフィッターの方に展示やレクチャーをしていただきました。ビニール袋を使った代用おむつの作り方や排泄物の拭き取りがしやすくなる保湿剤のサンプル、いろいろなおむつの紹介等、役立ちそうな情報をたくさん教えていただきました。実際に下腹部の模型を使って教えていただき、大変わかりやすかったです。段ボール箱やペットボトルで作る簡易トイレも好評で、今年度は総合サービス様にも簡易トイレのサンプルを多数ご提供いただき、参加者への紹介や配布も行いました。





4．災害時に使えるロープワークの実演や体験コーナー

【担当】自衛隊　阪南地区隊　岸和田地域事務所

【内容】自衛隊地域事務所の方に来ていただき、災害時に使えるロープワークや担架の作り方を教えていただきました。ロープワークのレクチャーは、テンポの良い口調で、参加された皆さんは動画を撮るなどして熱心に聞いていました。担架も棒とシーツで作る方法など具体的に教えていただきました。被災地域での自衛隊の活動の様子もたくさんのパネル展示で教えていただきました。





5．災害時の医療機器使用についてのコーナー

【担当】リハビリ訪問看護ステーションまえあし

【内容】臨床工学技士に来ていただき、災害時の電源確保について蓄電池やソーラーパネル等も展示していただきながら具体的に説明していただきました。自分に合った非常電源は何か、自分が使用する機器の消費電力はどれくらいなのか、自助補強の重要性を考える内容でした。蓄電池の選び方やソーラーパネルの充電時間、災害時にエアコンを動かす方法など、災害対策の具体的な方法や知識をたくさん教えていただきました。





6．防災備蓄非常食のサンプル展示、サンプル品配布コーナー

【担当】尾西食品株式会社、ホリカフーズ株式会社、株式会社宮源

【内容】毎年ご協力いただいている尾西食品様に加え、介護食や非常食を扱うホリカフーズ様と宮源様にサンプル品とカタログを多数提供していただきました。昨年度とは違った商品も用意していただいたので、参加者も気になる商品を手に取って持ち帰っていました。ごはんやパンだけでなく、おかずやデザートもたくさんの種類があり、備えておくべき非常食や介護食について、大変参考になりました。







7．電動車椅子体験コーナー

【担当】川村義肢株式会社

【内容】悪路でも進める電動車椅子など複数の電動車椅子の試乗体験があり、たくさんの児童生徒や保護者が試乗して、乗り心地を確かめていました。コーンやバーを障がい物として設置し、接触しないように進むなど、短時間でも電動車椅子の操作に慣れ、走行を楽しむ方もいました。





8．校内にある防災備蓄品展示コーナー

【担当】教員

【内容】PTA では各家庭に非常用の持ち出し袋を用意していただき、長期休みに賞味期限など点検していただいています。学校に保管している防災備蓄品もこの機会に確認していただきました。災害時用の大型テント内に非常用の食品やトイレ用品、寝袋や毛布などを展示し、触ったり、寝転んだりして学んでいました。蓄電池で扇風機を動かしたり、新聞紙スリッパを作成したり、展示も少しずつ充実してきました。







９．大阪府の備蓄非常食試食コーナー、ジュース配布

【担当】教員

【内容】大阪府の備蓄非常食のレトルト食品（白米、白がゆ、五目ごはん、カレーピラフ、コーンピラフ）の試食コーナーを今回初めて開きました。常温のままでの試食、蓄電池を使ってポットで沸かしたお湯で湯煎した試食、５種類の食べ比べなど、コーナーに来た参加者や提供している教員でよりおいしい食べ方を工夫していました。蓄電池でお湯を沸かすには、かなり多くの電力を消費することも学びました。







１０．児童生徒お楽しみコーナー

【担当】教員、PTA

【内容】PTA では、子どもたちが楽しめるコーナーを校内にある器具や発電機から取った電源で作れないか考えました。千本引き、発電機の電源を利用したエアートランポリン、介助用リフトの体験コーナーを設けました。児童生徒、きょうだいに大人気で、時間いっぱいまで遊んでいました。アルミシートやアルミポンチョの体験コーナーやペットボトルランタン展示も行いました。





参加者へのアンケート要約

ご参加いただいた方にアンケートを実施し、８４名の方の回答を得ました。今回の岸和田支援防災フェスについて、「あなたの期待やニーズにこたえていましたか」「得たことを今後に生かすことができると思いますか」の質問に、「とてもそう思う」「まあまあそう思う」の肯定的な回答はそれぞれ８９％と９３％でした。各ブースの満足度についても「とても満足」「まあまあ満足」の回答が６６％～８３％と参加された方にとって満足のいくものであったように思います。

また、参加者の感想では、防災について考えることができるよい機会で、備蓄品の見直しができたり、サンプル品がもらえたり、子どもたちの楽しめるコーナーがあったりと毎年楽しみにしているといった声がたくさん聞けました。一方で、代り映えがしなかった、規模が小さくなったように感じた、混雑した教室内の車椅子での動きが困難だったといった意見や一部のブース担当の教員が見学に回れなかったといった意見もいただきました。今後も学びの多い楽しめるイベントとなるよういただいたご意見も踏まえながら来年度に向け検討を進めていきたいと思います。